

# 経営者になることを決意した18歳

18歳の頃に「経営者になる」という志を立て、お客様のために、世の中のために頑張りを続けて15年。33歳のときに経営者になりました。しがく新聞は若い読者が多いですが、人生を振り返ると、私は若いころに意志を固めたことで、目の前で起きるすべてのことをその志に照らし合わせて自分をつくってこれたと思います。今回は自分の人生で試した成功哲学についてお話しします。

**若** 者が多用するコスパという言葉がありますが、私は18歳のときに「経営者になり、その会社を成長させていく」と意志決定したことが、人生における最強のコスパだったと思います。それからというもの、成功体験、失敗体験、テレビや映画、漫画、本など、目の前に現れるありとあらゆるものが、楽しんで終わりではなく「これは経営に活きるな」と、経営者になる前提で出会っていくことになったのです。また、自分の人生を振り返ると、今の自分をつくるベースをそれまでの人生で身につけていることに気づけます。

例えば、私は兼業農家の息子に生まれたので、農業においては田植え、稲刈りの時期や、どの苗をいつ植えるのかを経験からわかっています。商売については、店番をしていたことから、仕入れがあって販売ができることや、利益を得るとはなにかということも経験していました。これらの経験がベースにあつて社会人、経営者になっているのです。

21歳からの3年間は、給料が止まってい

ました。借入れは経営者として当たり前だと思ひ、キャッシングが尽きないようにしていました。いつも必ず、明日、来月、来年は良くなると信じていました。そうすると30代になっても自ずとそういう思考になるのです。経営を続けていくと山あり谷ありですが、このポジティブな思考が本当に役立ちました。

**思** 考は物体化する。思うことからすべてが始まる。18歳のときにそのようなことを「成功哲学」として教わりました。

人生はそういうものだろうと信じて、あれから35年が経ちます。自分の人生で試してみても、答え合わせになりました。あのとき教わった「成功哲学」は間違っていないませんでした。経営者になると意志を固めたことから、過去の経験も今の経験もすべてが意義あるものになり実現していったのです。勘違いをしてほしくないのは、私が凄いのではなく、皆さんも何かしらの経験をして今があります。30代、40代の方もこれまでのご自身の人生を思い出してください。若

いころに頑張ったことがベースになって、今に活かしていることは必ずあるはずで。経験や能力を思い出し、人生の決算をすれば、ベースがある分、若者よりも着実に志を実現できると思います。

まずは大きな志を持つ。そしてその志を実現するためにリーダーシップを身につけ、人間力を磨く。すると仲間が集まり、実現するための方法が増え、時間軸が破壊され、一人でやるよりも速いスピードで実現します。こういった思考や能力をしがく式やプレスタPiusを通して身につけることで、人生が良くなっていけます。自分のレベルが上がって世の中の役に立つ人間になっていくのは、面白い人生であり、意義のあることです。私は様々な仕事から若者教育を選びました。若者を教育して、日本国内だけでなく世界に貢献できる人材を一人でも多く輩出できるように仕事に励んでいきます。18歳で大きな志を持ち、実現する決意ができたことは、本当によかったと実感しています。皆さんも若いうちから大きな未来を想像し、実現する決意をしてください。



(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲  
MURODATE Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。ブータン王国王立マネジメント大学など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパン講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。